

ANNOUNCEMENTS

I. The 40th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1995

The 40th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics was held on September 20–22, 1995 at the Kumamoto Amusement Hall, Kumamoto-city. Professor Ichiro Matsuda, Department of Pediatrics, Kumamoto University School of Medicine, acted as president at the Annual Meeting. A total of 463 members participated in the meeting.

The academic program consisted of five plenary lectures, two symposia, two morning lectures, two luncheon seminars, and 217 oral presentations by active members.

Professor Yusuke Nakamura, Laboratory of Molecular Medicine, The Institute of Medical Sciences, The University of Tokyo, who was the winner of the Japan Society of Human Genetics Award for 1995, gave the memorial lecture entitled “Roles of DNA markers in medicine.” The following two memorial lectures were given by the winners of the 1995 Award for encouragement of younger human geneticists: 1) “Recent progress in molecular analysis of pyruvate kinase deficiency” by Dr. Hitoshi Kanno, Okinaka Memorial Institute for Medical Research; 2) “Molecular basis of mucopolysaccharidoses” by Dr. Shunji Tomatsu, Gifu University School of Medicine.

Professor Yoshiyuki Sakaki, Human Genome Center, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, gave the special lecture entitled “Towards the second phase of the human genome project.” Professor Takashi Miyata, Faculty of Science, Kyoto University, gave the special lecture for education entitled “Episodic diversification of gene families and relationship with organismal evolution.” The symposium I entitled “Trinucleotide repeats” was co-chaired by Professor Shoji Tsuji, Brain Research Institute, Niigata University, and by Dr. Tetsuro Miki, Osaka University Medical School, in which 5 papers were presented and discussed. The symposium II, entitled “Genetic aspects in dysmorphology,” was co-chaired by Professor Yusuke Nakamura, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, and by Professor Norio Niikawa, Nagasaki University, School of Medicine. The following two morning lectures were given: 1) “Prenatal and preimplantation diagnosis” by Dr. Kaoru Suzumori, Medical School, Nagoya City University; 2) “Oncogenes and tumor suppressor genes” by Dr. Hideyuki Saya, Kumamoto University School of Medicine. The following two luncheon seminars were presented: 1) “Genomic imprinting” by Dr. Yoshihiro Jinno, Nagasaki University, School of Medicine; 2) “Gene targetting” by Dr. Shin-ichi Aizawa, Kumamoto University School of Medicine.

Abstracts of the above lectures, symposia, seminars and 217 oral presentations will be printed in this issue (Vol. 41, No. 1, 1996) of the Journal.

The Meeting of the Board of Directors of the Japan Society of Human Genetics was held on September 19 at the Kumamoto City International Center, Kumamoto-city. The main agenda of the meeting consisted of the following: 1) Recommendation of honorary members of the Japan Society of Human Genetics; 2) The budget of the Society for fiscal

year 1996; 3) Nomination of the president of the 42nd Annual Meeting of the Society; 4) Presentation of "The Guidelines for Gene Diagnosis of Hereditary Diseases"; 5) Organization of the Committee for review of the rules of the Society; 6) Collection of the supporting members of the Society; 7) Nominations of the secretaries for the next term. Reports were prepared on the following subjects: 1) Numerical changes in the society membership; 2) Financial report and audit; 3) Arrangements for the 40th and 41st Annual Meetings; 4) Status of submission and acceptance of manuscripts for the Japanese Journal of Human Genetics; 5) Reports from the following committees; Selection committee of the society awards, Committee for human genetics teaching, Committee for qualification system for specialists in medical genetics, Committee for qualification system for specialists in clinical cytogenetics, Committee for genetic counseling and prenatal diagnosis, and Committee for social insurance; 6) Reports on the National Committee of Medical Genetics of the Japan Science Council; 7) Reports on the 5th Medical Genetics Seminar (Sept. 1-3, Makuhari, Chiba); 8) Reports on the 2nd Clinical Cytogenetics Seminar (Sept. 9-10, Keihoku-machi, Kyoto Prefecture); 9) Information of travel grants for younger human geneticists attending the 9th International Congress of Human Genetics to be held in Rio de Janeiro, Brazil, August 18-23, 1996.

Subsequently, the Council of the Japan Society of Human Genetics was held at the Kumamoto Amusement Hall to discuss the agenda proposed by the Board of Directors.

The general assembly of the Japan Society of Human Genetics was called on September 21st at the Kumamoto Amusement Hall. The subjects drafted by the Board of Directors and approved by the Council of the Society were passed in their original forms at the conference. Professor Jun-ichi Furuyama, Department of Genetics, Hyogo College of Medicine, was nominated to preside at the 42nd Annual Meeting which will be held in Kobe in the fall of 1997.

The agenda and reports presented at the Conference are described below in more detail (in Japanese).

II. 日本人類遺伝学会第40回(1995)大会記事

会 場：熊本市桜町1番3号 熊本市民会館

会 期：平成7(1995)年9月20日(水)～9月22日(金)

大会会長：松田一郎教授(熊本大学医学部小児科学講座)

発 表：特別講演：新しいフェーズに入るヒトゲノム解析計画—マップからシーケンスへ— 榊 佳之(東京大・医科研・ヒトゲノム解析センター)

座長：中込弥男(順天堂大・医・公衆衛生)

教育講演：分子進化 宮田 隆(京都大・理)

座長：松田一郎(熊本大・医・小児科)

学会賞受賞記念講演：ヒトDNAマーカーの単離とその応用 中村祐輔(東京大・医科研・分子病態)

座長：三輪史朗(冲中研)

学会奨励賞受賞記念講演：

1. ビルビン酸キナーゼ異常による遺伝性溶血性貧血症の病因に関する分子遺伝学

的解析。菅野 仁 (沖中研)

2. 遺伝性ムコ多糖症の遺伝子解析。戸松俊治 (岐阜大・医・小児科)

座長：三輪史朗 (沖中研)

シンポジウム I：三塩基反復。

司会：辻 省次 (新潟大・脳研・神経内科)

三木哲郎 (大阪大・医・老年病医学)

シンポジウム II：奇形の遺伝学。

司会：中村祐輔 (東京大・医科研・分子病態)

新川詔夫 (長崎大・医・原研遺伝)

モーニングレクチャー：

1. 着床前及び出生前診断。鈴木 薫 (名古屋市大・医・産婦人科)

座長：佐藤孝道 (虎の門病院・産婦人科)

2. 癌遺伝子。佐谷秀行 (熊本大・医・腫瘍医学)

座長：中村祐輔 (東京大・医科研・分子病態)

ランチョンセミナー：

1. インプリンティング。陣野吉廣 (長崎大・医・原研遺伝)

座長：佐々木裕之 (九州大・遺伝情報実験施設)

2. ジーンターゲッティング。相澤慎一 (熊本大・医・遺伝発生医学研)

座長：浜口秀夫 (筑波大・基礎医学系)

一般演題 217 題

第 1 日 (9 月 20 日)

松田大会長による開会の辞に引き続き、午前中は 3 会場で一般演題の発表があった。昼休みには臨床遺伝学認定医制度委員会と遺伝医学セミナー拡大委員会が開かれ、午後は一般演題の発表に続きシンポジウム I が行われた。

第 2 日 (9 月 21 日)

午前は早朝のモーニングレクチャーと 3 会場にて一般演題の発表があった。昼休みに編集委員会が開かれた。午後は総会議事、学会奨励賞と学会賞の授賞式が行われ、菅野 仁氏と戸松俊治氏による学会奨励賞受賞講演、中村祐輔氏による学会賞受賞講演があった。ついで教育講演と特別講演が行われた。直後に恒例の写真撮影があり、会場を熊本厚生年金会館に移して恒例の懇親会が盛大に催された。

第 3 日 (9 月 22 日)

午前中、3 会場にて一般講演があった。昼食時にはランチョンセミナーが行われ、また臨床細胞遺伝学認定医制度委員会と臨床細胞遺伝学セミナー実行委員会との合同委員会が開かれた。午後の前半はシンポジウム II が行われ、後半は 2 会場にて一般演題が発表された。最後に松田大会長の閉会の辞をもって全日程を終了した。

3 日間を通して、大会への会員参加は 448 名 (名誉会員 2 名、評議員 54 名、一般会員 392 名)、会員外の当日参加者は 15 名 (うち招待講演者 1 名、シンポジスト 4 名、当日会員 10 名)、合計 463 名であった。一般演題数は 217 題、広汎な研究領域で活発な討論が行われた。

理事会(本年度第2回)

日 時：1995(平成7)年9月19日(火) 15:00~16:45

場 所：熊本市国際交流会館，特別会議室(熊本市花畑町4-5)

出席者：三輪理事長，松田(大会会長，遺伝相談・出生前診断に関する委員会委員長)，笹月(編集委員長)，新川(認定医制度委員会委員長)，中込(次期理事長)，多田・浜口各理事，近藤(喜)教育推進委員会委員長，古山臨床細胞遺伝学認定士制度委員会委員長，黒木社会保険小委員会委員長(編集幹事)，安河内会計幹事，池内庶務幹事。また，次期庶務幹事予定の中堀評議員がオブザーバーとして出席した。

報告事項

1. 名誉会員の訃報(三輪)
2. 庶務報告(会員異動状況)(池内)
3. 1994(平成6)年度会計報告および1995(平成7)年度中間報告(安河内)
4. 1994(平成6)年度会計監査報告(黒木，池内)
5. 第40回(1995年度)大会準備状況(松田)
6. 第41回(1996年度)大会準備状況(近藤)
7. 委員会報告
 - 1) 編集委員会(笹月)，2) 教育推進委員会(近藤)，3) 臨床遺伝学認定医制度委員会(新川)，4) 臨床細胞遺伝学認定士制度委員会(古山)，5) 遺伝相談・出生前診断に関する委員会(松田)，6) 社会保険小委員会(黒木)
8. 日本学術会議(三輪)
9. 第5回遺伝医学セミナーの報告(新川)
10. 第2回臨床細胞遺伝学セミナーの報告(池内)
11. 第9回(1996年)国際人類遺伝学会出席者への旅費補助の案内について(三輪)

協議事項

1. 名誉会員の推薦(三輪)
2. 第42回(1997年度)大会会長並びに開催地(三輪)
3. 1996(平成8)年度予算案(安河内)
4. 「遺伝性疾患の遺伝子診断に関するガイドライン(案)」について(松田)
5. 維持会員の募集について(三輪)
6. 会則等検討委員会の設置について(三輪)
7. 臨床細胞遺伝学認定士制度における研修施設の認定に関わる認定料の扱いについて(古山)
8. 次期幹事の委嘱について(中込)
9. 第42回(1997年度)大会会長挨拶(古山)

評議員会

日 時：1995(平成7)年9月19日(火) 17:00~18:45

場 所：熊本市民会館，第3・4会議室(熊本市桜町1-3)

出席者：54名

I. 報告事項

1. 松田大会会長より、第40回大会の開催と準備状況について報告があった。
2. 三輪理事長より、名誉会員の高原滋夫先生(岡山大学名誉教授)(86歳)が1994年11月1日に(本誌40巻1号, 165ページ, 1995, 参照), 木村資生先生(国立遺伝学研究所名誉教授, 日本学士院会員)(70歳)が同年11月13日に(本誌40巻1号, 165ページ, 1995; 同40巻2号, 217ページ, 1995, 参照), また元理事の佐々木本道先生(佐々木研究所所長, 北海道大学名誉教授)(69歳)が1995年6月7日に(本誌40巻4号, 351ページ, 1995, 参照)ご逝去された旨の報告があった。
3. 黒木選挙管理委員長より、本年度行われた学会役員(評議員, 理事, 監事, 学会賞選考委員, 理事長)の選挙結果について報告があった(本誌40巻3号, 289ページ, 1995, 参照)。
4. 庶務報告: 最近1年間の会員異動状況(資料1)が報告され, とくに最近3年間における会員数の増加が著しい旨の紹介があった。
5. 会計報告: 1994(平成6)年度会計報告(資料2)および1995(平成7)年度会計中間報告(資料3)があった。引き続き1994年度会計報告の監査報告がなされ承認された。
6. 委員会報告
 - 1) 編集委員会: 笹月委員長より, 本誌の発行状況, 論文の投稿および受理状況が報告された。また編集委員に若干の交替・追加がなされる旨の報告があった。
 - 2) 学会賞選考委員会: 1995年3月31日に開催された委員会の審議結果について報告された(本誌40巻2号, 218ページ, 1995, 参照)。
 - 3) 教育推進委員会: 「ヒトの遺伝学」をもち込んだ卒前医学教育への充実化を目的とした本委員会の活動状況が近藤委員長より報告された。また, 「ヒトの遺伝学」は医学領域のみならず歯学・保健科学(保健・検査・看護)領域でも必要であるとの認識のもとに, これら学部・学科を対象にその実情調査を行い, 学界・行政に提言したい旨の報告があった。
 - 4) 臨床遺伝学認定医制度委員会: 新川委員長より, 1994(平成6)年度収支決算の報告があり, 経過措置期間の終了に伴い昨年度行われた第1回認定試験の報告, および今年度の第2回試験(9月19日, 初めて筆記試験を導入)の状況等が報告された。
 - 5) 臨床細胞遺伝学認定士制度委員会: 古山委員長より, 1994(平成6)年度収支決算, 経過措置による第1回の認定結果(認定士105名, 指導士79名)(本誌40巻2号, 220ページ, 1995, 参照), ならびに研修施設の認定申請状況等が報告された。
 - 6) 遺伝相談・出生前診断に関する委員会: 松田委員長より本委員会で起草された「遺伝性疾患の遺伝子診断に関するガイドライン(案)」が提示された。
 - 7) 社会保険小委員会: 黒木委員長より, 遺伝相談の保険点数化を実現するべく, 昨年度に引き続きさらに関係各方面に働きかけたい旨の報告があった。
7. 日本学術会議: 三輪理事長(学術会議第7部会員)より, 昨年7月より開始された第16期の活動(本誌39巻4号~40巻3号のAnnouncementsを参照), とくに遺伝医学研連委員会(三輪委員長のほか委員8名)の本年度活動状況が報告された。また, 来年度の本学会大会において, 日本学術会議遺伝医学研連および北海道新聞との共催で, 公開シン

ポジウム「ヒトゲノムと社会」を開催する予定である旨の報告があった。

8. 1996(平成8)年度大会準備状況報告：第41回大会は、1996(平成8)年10月23日(水)～25日(金)に、札幌市教育文化会館で開催予定である旨、近藤次期大会会長(北海道大学医学部公衆衛生学教室)より報告があった。
9. 第5回遺伝医学セミナー：福岡評議員(本セミナー実行委員会委員長)より1995年9月1日(金)～3日(日)の3日間、千葉市幕張で開かれ、247名の参加者を得て盛会であったことが報告された。
10. 第2回臨床細胞遺伝学セミナー：池内庶務幹事(本セミナー実行委員会委員長)より、1995年9月9日(土)～10日(日)の2日間、京都府京北町で開催され、当初の予定定員を超える141名の参加者があり盛会であった旨、報告された。
11. 第9回国際人類遺伝学会(会期：1996年8月18日～23日；場所：ブラジル、リオデジャネイロ)(本誌40巻1号、165ページ、1995、参照)に出席予定の若手研究者に対して本学会から旅費を補助する件について、三輪理事長より報告があった(本誌40巻3号、303ページ、1995、参照)。

II. 協議事項

1. 理事長より、松本秀雄博士(大阪医科大学名誉教授、前学長)および岡嶋道夫博士(東京医科大学歯科大学名誉教授、前東京都監察医務院院長)を名誉会員に推挙することの提案があり、諒承された。
2. 理事長より、第42回大会(1997年度)の大会会長として古山順一教授(兵庫医科大学遺伝学教室)にお願いしたい旨の提案があり、諒承された。
3. 1996(平成8)年度学会予算案(資料4)が協議され、原案どおり承認された。
4. 遺伝相談・出生前診断に関する委員会から提示された「遺伝性疾患の遺伝子診断に関するガイドライン(案)」が協議され、若干の修正が行われた後、承認された。
5. 維持会員募集についての具体策が協議され、実施の運びとなった。
6. 三輪理事長から、会則や内規等の検討および整備を行うための会則等検討委員会を設け、今村(委員長)、池内、黒木、中堀、安河内の5氏に委員を委嘱したい旨の提案があり、諒承された。
7. 臨床細胞遺伝学認定士制度における研修施設の認定に関わる問題が協議され、商業ベースで染色体検査を実施している検査施設(衛生検査所)に対しては、本学会の維持会員への入会を要請し強力を求めることになった。またこれに伴い、学会会計より認定士制度委員会に対して、相応の経費が必要に応じて支給されることになった。
8. 中込次期理事長より、次年度からの幹事として、中堀豊評議員(庶務幹事、新任)、西村泰治評議員(編集幹事、新任)および安河内幸雄現幹事(会計幹事、留任)に委嘱したい旨の提案があり諒承された。

総 会

日 時：1995(平成7)年9月21日(木) 13:00～14:00

場 所：熊本市民会館(熊本市桜町1-3)

I. 報告事項

1. 松田大会会長から、第40回大会運営についての状況報告があった。

2. 三輪理事長から、本学会名誉会員の高原滋夫博士と木村資生博士、および元理事佐々木本道博士のご逝去の報告があった。
3. 黒木選挙管理委員長から、今年度に行われた学会役員選挙の結果について報告があった。
4. 庶務報告：過去5年間の会員異動状況、とくに最近3年間の会員数急増についての報告があった。
5. 会計報告：1994(平成6)年度会計報告と1995(平成7)年度同中間報告があった。
6. 1994(平成6)年度の会計監査報告があり、承認された。
7. 委員会報告：編集委員会、学会賞選考委員会、教育推進委員会、臨床遺伝学認定医制度委員会、臨床細胞遺伝学認定士制度委員会、遺伝相談・出生前診断に関する委員会、および社会保険小委員会について、それぞれの報告があった。
8. 日本学術会議：第16期の第7部遺伝医学研連の活動状況が、三輪理事長より報告された。
9. 1996(平成8)年度第41回大会の準備状況について、近藤次期大会会長から報告があった。
10. 第5回遺伝医学セミナー：1995(平成7)年9月1日～3日に千葉市幕張で開催されたセミナーの状況が、福嶋セミナー実行委員長より報告された。
11. 第2回臨床細胞遺伝学セミナー：1995(平成7)年9月9日～10日に京都府京北町で開催されたセミナーの状況が、池内セミナー実行委員長より報告された。
12. 第9回国際人類遺伝学会(1996年8月18日～23日、ブラジル・リオデジャネイロ)に出席予定の若手研究者に対して本学会より旅費を補助する件について、三輪理事長より報告があった。

II. 協議事項

1. 本学会名誉会員に、松本秀雄博士、岡嶋道夫博士を推挙したい旨の提案があり諒承された。
2. 第42回(1997年)大会は、古山順一教授(兵庫医科大学遺伝学教室)を大会会長として神戸市で開催する旨の報告があり諒承された。
3. 1996(平成8)年度予算案について協議され、原案どおり承認された。
4. 遺伝相談・出生前診断に関する委員会から提示された「遺伝性疾患の遺伝子診断に関するガイドライン(案)」が協議され、原案どおり承認された。
5. 維持会員の募集に関する具体策が報告され、協議のうえ諒承された。
6. 会則等検討委員会を設置し、委員として、今村(委員長)、池内、黒木、中堀、安河内の5氏に委嘱したい旨の提案があり、諒承された。
7. 臨床細胞遺伝学認定士制度における研修施設の認定にさいして、商業ベースで染色体検査を実施している検査施設(衛生検査所)に対しては、本学会の維持会員への入会を要請することとし、これに伴い、学会会計より認定士制度委員会に対して必要に応じて相応の経費が支給されることになった旨の報告があり、諒承された。
8. 最後に、第42回大会(1997年度)大会長、古山順一教授(兵庫医科大学遺伝学教室)より挨拶があった。

(庶務幹事 池内達郎)

[資料 1] 年度別・会員数の推移 (過去5年間)

| | | 平 2 90・12 | 平 3 91・12 | 平 4 92・12 | 平 5 93・12 | 平 6 94.12 | 平成 7 95.7.31 |
|------------------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 国 内 会 員 | 普通会員 | 990 | 1,258 | 1,214 | 1,347 | 1,613 | 1,725 |
| | 〃(学生) | 87 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 名誉会員 | 16 | 16 | 15 | 15 | 13 | 13 |
| | 維持会員 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| | 機関会員 | 80 | 80 | 79 | 75 | 72 | 72 |
| | 寄贈・交換 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| | 合計 | 1,185 | 1,366 | 1,320 | 1,449 | 1,709 | 1,821 |
| 海 外 会 員 | 普通会員 | 31 | 35 | 31 | 34 | 34 | 35 |
| | 名誉会員 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 |
| | 寄贈・交換 | 11 | 12 | 11 | 13 | 13 | 13 |
| | 合計 | 53 | 58 | 53 | 58 | 58 | 59 |
| 総 合 計 | | 1,238 | 1,424 | 1,373 | 1,507 | 1,767 | 1,880 |

[資料 2] 平成6年度会計報告 (1/1/94~12/31/94)

| 収 入 | | 支 出 | |
|--------------------------|-------------|-------------------|-------------|
| 前年度繰越金 | 3,731,637円 | 雑誌刊行費 | 8,946,194円 |
| 会 費 | 11,093,534 | 雑誌発送費 | 640,265 |
| 雑誌売上代 | 482,775 | 雑誌編集費 | 350,000 |
| 論文掲載料 | 620,110 | 大会補助費 | 500,000 |
| 抄録利用料 | 17,716 | 事務費 | 2,628,918 |
| 預金利子 | 60,430 | 会議・旅費 | 364,835 |
| 文部省科研費 | 1,030,000 | 人件費 | 600,000 |
| 日本医師会助成金 | 200,000 | 次年度繰越金 | 3,505,990 |
| 染色体検査認定制度 設置準備委員会(返済) | 300,000 | | |
| 計 | 17,536,202円 | 計 | 17,536,202円 |
| (実収入 13,804,565円) | | (実支出 14,030,212円) | |

実収入 13,804,565 円 - 実支出 14,030,212 円 = △ 225,647 円

[資料 3] 平成7年度会計中間報告 (1/1/95~9/18/95)

| 収 入 | | 支 出 | |
|--------|--------------|-------|------------|
| 前年度繰越金 | 3,505,990円 | 雑誌刊行費 | 6,108,822円 |
| 会 費 | 10,806,200 | 雑誌発送費 | 371,982 |
| 雑誌売上代 | 203,060 | 大会補助費 | 500,000 |
| 論文掲載料 | 252,950 | IGF会費 | 210,840 |
| 抄録利用料 | 8,652 | 事務費 | 616,294 |
| 預金利子 | 35,742 | 会議・旅費 | 494,230 |
| | | 人件費 | 200,000 |
| | | 役員選挙費 | 256,910 |
| 計 | 14,812,594円 | 計 | 8,759,078円 |
| (実収入) | 11,306,604円) | | |

[資料 4] 平成8年度予算案

| 収 入 | | 支 出 | |
|----------|----------|--------|----------|
| 前年度繰越金 | 2,000千円 | 雑誌刊行費 | 7,600千円 |
| 会 費 | 11,000 | 雑誌発送費 | 600 |
| 雑誌売上代 | 400 | 雑誌編集費 | 350 |
| 論文掲載料 | 600 | 大会補助費 | 500 |
| 預金利子 | 30 | IGF会費 | 100 |
| 文部省科研費 | 900 | 事務費 | 2,700 |
| 日本医師会助成金 | 200 | 会議・旅費 | 500 |
| | | 人件費 | 600 |
| | | 次年度繰越金 | 2,180 |
| 計 | 15,130千円 | 計 | 15,130千円 |

平成7年度日本人類遺伝学会編集委員会議事録

日 時：1995年9月21日(木) 12:20~13:20

場 所：熊本市民会館第3・4会議室

報告事項

1. 雑誌発行状況報告

順調に定期に発行されている。掲載論文の種類では原著論文が少なく、短報やRFLPレポートが増加傾向にあり、ページ数は減っている。原著論文の積極的な投稿を希望したい。投稿論文の採択率は68%で、掲載までの査読回数は1回がほとんどである。査読期間は7割が3週間以内と適切である。

2. 編集委員の追加

投稿論文の分野で分子遺伝学のものが増加しているため、一部の編集委員の負担増を招いている。これに対処するために、以下の6名を新たに編集委員に追加したい。

榊 佳之(東大医科研), 服巻保幸(九大遺伝情報), 鈴木友和(九大生医研), 宇都宮讓二(兵庫医大外科), 西村泰治(熊本大免疫識別), 江見 充(日本医大老研)

3. 編集幹事の交代

黒木良和幹事(神奈川こども医療センター)の監事就任に伴い、後任は西村泰治(熊本大免疫識別)に委嘱された。

協議事項

1. 投稿規定の見直しが検討され、以下の点が変更された。
 - 1) 日本語論文の投稿がないので、日本語の投稿規定は廃止する。
 - 2) 英文投稿規定の中で、Language : English のみとし、他は省略する。その他 2~3 個所の訂正が提案され、編集長に一任された。
2. Jpn J Human Genet 誌の裏表紙に本誌のタイトルや内容が国際的な抄録誌に索引されまたは抄録されている旨を明記する件が提案され、協議の結果本誌の評価を高めるのに役立つとして明記することになった。
3. 外国の出版社(Springer)から本誌を出版したいという要請が紹介され、協議の結果、前向きに検討していくことになった。
4. 編集委員の任期についても検討され、会則等検討委員会で検討することになった。

(編集幹事 黒木良和)

日本学術会議だより No. 39

高度研究体制の早期確立についての要望が採択さる

平成7年11月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、10月に開催された日本学術会議第122回総会の概要と、総会初日に採択された「高度研究体制の早期確立について（要望）」の内容を紹介します。

日本学術会議第122回総会は、平成7年10月25日（水）から3日間にわたって開催されました。

総会初日は、まず、報告が行われ、会長経過報告及び科学技術会議報告に続き各運営附置委員会、各部、複合領域研究連絡委員会運営協議会、各常置委員会及び各特別委員会の報告がそれぞれの委員長・部長等から行われました。

この中で、利谷広報委員会委員長から、①日本学術会議月報の充実に伴い、会員各位からの原稿執筆の協力要請、②平成8年度の公開講演会の企画の募集を2月連合部会時に行うので、会員各位への事前検討要請、③日学選書の出版件数の拡大のための企画募集、④前日に開催した広報委員と地区会議代表幹事との連絡会議の議事から、地区会議の抱える問題点の紹介、の4点について発言がありました。

また、第7常置委員会、学術と産業特別委員会及び阪神・淡路大震災調査特別委員会からは、それぞれ、総会報告に付して、①国際対応の目的や役割をまとめ、それに対する日本学術会議内外からの意見を集約することで、日本学術会議としての国際対応の立場の構築をめざしてまとめられた「日本学術会議と国際対応（仮題）」、②学術の新たな進むべき方向に指標を与え、より高度な産業への貢献の方向を定めるのに必要な価値判断の基準を与えることの第一歩を踏み出すための端緒となるべくまとめられた「歴史的転換期における学術と産業のかかわりについて」、③事態の緊急性にかんがみ、意見のまとまったものから順次これを報告したいとの趣旨から「強震観測網の充実と強震研究体制の整備について」と「災害医療体制の整備について」の2件についてをその第一段階として位置付けてまとめられた「阪神・淡路大震災調査特別委員会第一次報告」が会員に配布されました。

この後、会員推薦管理会報告及び各研究連絡委員会報告に続いて、アジア学術会議実行委員長報告があり、西島委員長から、明年3月に開催予定の第3回アジア学術会議を中心とした今後の進め方について発言があ

りました。

続いて、提案事項の説明・討論・採決に入り、「内科系科学」と「外科系科学」に分かれている第7部の専門を見直して統合すること及び第17期に向けて、研究連絡委員会を見直し、改廃、統合、名称変更を行うことを内容とした①「日本学術会議法施行令」の一部を改正する手続きを進めること、②「日本学術会議会則」の別表の一部改正、③「日本学術会議の推薦に係る研究連絡委員会の指定等に関する規則」の別表の一部改正、④複数の研究連絡委員会にまたがる専門委員会の設置を認めることを内容とした「日本学術会議の運営の細則に関する内規」の一部改正、⑤会員推薦管理会が学術研究団体の登録を審査するに際して、資料を得る必要があると認められる場合には、日本学術会議の意見を聴取できるようにするための「学術研究団体の登録に関する規則」の一部改正、⑥今後における日本学術会議の組織、機能、施設等のあり方について、中・長期的観点から検討することを任務とした「運営審議会附置将来計画委員会」の設置についてを、それぞれ賛成多数で可決しました。

さらに、⑦21世紀を目前に控え、我が国の学術研究の飛躍的發展を図る観点から、研究費、研究者及び研究機構について抜本的な改善充実を図り、我が国の学術研究体制を一挙に高度の水準に引き上げ、高度研究体制の早期確立の実現を目指した「高度研究体制の早期確立について（要望）」を賛成多数で採択しました。

引き続き、⑧「脳の科学とこころの問題」を脳科学の視点からまとめた脳の科学とこころの問題特別委員会の対外報告案について討議を行いました。会員から活発な意見が出されたため、審議を2日目に持ち越して検討した結果、運営審議会で一部修文を行うことを条件として、賛成多数で対外報告とすることを了承しました。

2日目の最後に、前日配布された第7常置委員会の「日本学術会議と国際対応（仮題）」に基づき会員の間で自由討議が行われ、活発な意見交換がありました。

伊藤会長が村山総理に要望書を手交

平成7年10月30日(月)の午後3時に伊藤会長及び利谷、西島両副会長が内閣総理大臣官邸に村山総理大臣を訪ね、総理府の担当大臣である野坂内閣官房長官の立会いの下、平成7年10月25日(水)の第122回日本学術会議総会で採択された「高度研究体制の早期確立について」の要望書を手渡し、その趣旨等について説明を交えながら、懇談を行いました。

村山総理は、「要望の趣旨については、大変よく理

解でき、貴重なご意見を賜ったものと思う。しかし、例えば、研究費の倍増についての要望などは、シーリングの枠もあり、容易ではない。補正予算で配慮したりして、政府もいろいろ努力はしている。今後とも期待に沿うよう努力する。」と語り、要望書について理解を示しました。

なお、要望書の内容は以下のとおりです。

高度研究体制の早期確立について(要望)

学術研究が我が国はもちろん、世界全体にとってその将来を左右する重要な役割を担うという認識が政・官・産を通じて最近とみに高まってきたことは喜ばしいことである。しかしその一方、我が国の学術研究体制にはなお制度的、構造的な多くの問題が顕在化している。

日本学術会議では、平成元年4月20日付け「大学等における学術研究の推進について—研究設備等の高度化に関する緊急提言—」の勧告を提出し、政府関係機関においても、このような現状を踏まえ、学術研究体制の改善のための様々な施策が講じられている。しかしなお、21世紀を目前に控え、我が国の学術研究の飛躍的発展を図る観点から、研究費、研究者及び研究機構について抜本的な改善充実を図り、我が国の学術研究体制を一挙に高度の水準に引き上げ、高度研究体制を早期に確立することが不可欠である。科学者の代表機関として、日本学術会議は以下の点を早急に実現することを要望する。

1. 研究費について

我が国の研究費の政府による負担割合、政府負担研究費の対GNP比を欧米先進諸国並みに引き上げ、政府の研究開発投資額を早期に倍増させることが必要である。

その際、基礎研究、応用開発研究に加えて、将来における応用の潜在力に注目した「戦略研究」のそれぞれについて助成を強化するとともに、国費による投資的経費としての研究費の支出、民間の研究助成財団の活動の促進などにより、多元的な研究資金源を確保することが必要である。

2. 研究者について

優秀な研究者を確保する観点から、研究費、研究施設等について劣悪な状況にある研究環境を早急に改善することが必要である。

また、ポストドクトラルフェローシップの飛躍的拡充など研究者の雇用形態の多様化を図るとともに、若手研究者の支援施策の改善充実、公正で多角的な評価システムの確立、外国人研究者の任用も含めた研究者の国際的な交流の促進などにより、研究者がその研究能力を最大限に発揮する条件を整えることが必要である。

3. 研究機構について

大学、研究所(国立試験研究機関、民営研究機関、大学共同利用機関及び大学の附置研究所をいう。)、企業の3セクターの調和のとれた発展、規模的に不十分な研究所セクターの拡充を図るとともに、これらの間の人的交流や研究協力を促進することが必要である。

また、急速に進展する学問の最前線に立って常に高い研究活動を維持するため、研究組織に安定性と流動性の二重性を導入するとともに、我が国の学術研究体制の重大な問題となっている研究支援者の不足について、所要の対策を講じる必要がある。

4. 国際的連携について

世界に開かれた共同研究の拠点の整備、研究助成を目的とする基金の設定など、研究者の国際交流、共同研究等の促進のため、所要の措置を講じる必要がある。その際、アジアの一員として、アジア地域に対しては特段の配慮が必要である。

日学双書の刊行案内

日本学術会議主催公開講演会の記録をもとに編集された次の日学双書が刊行されました。

日学双書No.23「歴史的転換期における学術と産業の在り方をめぐって」

【定価】1,000円(消費税込み、送料別途)

※問い合わせ先

財団法人日本学術協力財団 ☎ 03-3403-9788

日本医学会だより

JAMS News

1995年10月 No. 14

日本医学会
〒113 東京都文京区本駒込2-28-16
日本医師会館内 TEL 03-3946-2121

第103回日本医学会シンポジウム

1995年8月25日～27日に、「アポトーシス—概念と実体—」との課題の下に、パレスホテル箱根においてクローズド形式で開催した。

本シンポジウムは、玉置憲一、長田重一、金澤一郎各氏がシンポジウム組織委員としてプログラムの編成その他を行ってきたものである。

プログラムは、I. 発生・分化とアポトーシス、II. 病態とアポトーシス、III. アポトーシスの分子機構、の3セッションから構成され、アポトーシスの定義を含めた最近の研究成果につき参加者が活発に論議した（参加者総数39名）。記録集は、平成8年3月頃に刊行の予定。

第104回日本医学会シンポジウム

「消化管癌における最近の話題—胃癌と大腸癌—」が、1995年12月1日（金、10:00～17:30）に日本医師会館大講堂で開催される予定である。

本シンポジウムの組織委員は、三輪 剛、小堀鷗一郎、中村祐輔の3氏からなる。参加希望者は、日本医学会に葉書で申し込まれたい。参加費は無料。

プログラムの概要は、下記のとおり。

I. 胃癌・大腸癌の分子生物学

1. ジーンターゲティングを用いたヒト大腸癌発癌過程の解析/野田哲生（癌研・細胞生物学）
2. 胃癌の多段階発癌機構とその臨床応用/田

原榮一（広島大・病理学）

3. 大腸癌の多段階発生機構とその臨床応用/
中村祐輔（東大・医科研）

II. 臨床のトピックス—内科系—

4. ここまでできる内視鏡治療—胃癌—/吉田茂昭（国立がんセンター東病院）
5. ここまでできる内視鏡治療—大腸癌—/工藤進英（秋田赤十字病院）
6. 胃癌・大腸癌の化学療法とQOL評価/栗原稔（昭和大学豊洲病院）
7. Helicobacter pylori 感染と胃癌の関わり/
浅香正博（北大・内科学）

III. 臨床のトピックス—外科系—

III-I. 機能温存手術（縮小手術）

8. 胃癌/丸山圭一（国立がんセンター）
9. 大腸癌に対する縮小手術および機能温存手術/斉藤幸夫（国立国際医療センター）

III-II. 他臓器合併切除（拡大手術）

10. スキルス胃癌に対する拡大根治手術「左上腹内臓全摘術+Appleby手術」/古河 洋（大阪府立成人病センター）
11. 直腸癌手術における機能温存と拡大郭清の両立/森 武生（都立駒込病院）

医学賞・医学研究助成費授賞の決定

医学賞・医学研究助成費授与の選考は、日本医師会から本会に委託されており、本年度は9月11日にそのための委員会が開催された。授賞は、日本医師会設立記念医学大会（11月1日）

の場において行われる。

日本医師会医学賞は、候補 17 件から下記の 3 氏を選考し、日本医師会に推薦した（敬称略）。

- ・喫煙の発がん影響解明と対策に関する研究/渡邊 昌（国立がんセンター・疫学）
- ・消化器癌の増殖，浸潤，転移に関連する遺伝子の研究/谷内 昭（札幌医大・内科学）
- ・先天性心疾患に対する新しい外科治療法の開発/川島康生（国立循環器病センター・外科）
また日本医師会医学研究助成費は、応募 71 件中，次の 15 氏を選考した。
- ・視交叉上核における概日リズム発現及び同調の分子機構に関する研究/岡村 均（神戸大・解剖学）
- ・新たな補体活性化経路，レクチン経路に関する研究/藤田禎三（福島医大・免疫学）
- ・ストレス応答による免疫制御の分子機構の解析/吉開泰信（名古屋大・免疫学）
- ・開発途上国における母子保健向上のための方法論/倉辻忠俊（国立小児医療センター・小児科学）
- ・前白血病状態から白血病への進展の分子機構の解析/三谷絹子（東大・内科学）
- ・アンジオテンシン II 受容体サブタイプ遺伝子の発現調節と新しい転写抑制蛋白の構造決定に関する研究/松原弘明（関西医大・内科学）
- ・HTLV-I 型関節症の分子生物学的病因解明と遺伝子治療の開発/北島 勲（鹿児島大・内科学）
- ・インスリン依存性糖尿病（IDDM）の予知・予防を目的とした分子遺伝学的研究/池上博司（大阪大・内科学）
- ・多機能器官再生因子 HGFcDNA 導入による肺線維症遺伝子治療に関する研究/八重柏政宏（東北大加齢医学研・内科学）
- ・IgA 腎症における糸球体障害の細胞生物学的研究/吉岡加寿夫（近畿大・小児科学）
- ・ヒト遺伝子組換え型 bFGF（Basic fibroblast growth factor）を用いた虚血性心疾患に対す

る外科的血管新生療法の基礎的研究/小塚裕（東大・外科学）

- ・遺伝子の多型性分析からみた癌発生および転移の予知と人種間での発癌特異性の解析/加藤俊二（日医大・外科学）
- ・微量癌細胞検出のための遺伝子学的診断法の確立/森 正樹（九州大生体防御医学研・外科学）
- ・網膜虚血に基づく遅発性神経細胞死の細胞内機構の解明と保護物質の開発/柏井 聡（京大・眼科学）
- ・尿路性器癌における抗癌剤耐性の機序と克服に関する研究/内藤誠二（九大・泌尿器科学）

新規加盟学会審査制度検討委員会

日本医学会では、小泉明委員長の下で、新規加盟を希望する学会に対する従来の審査のあり方が見直されつつあり、既報のとおり第 62 回日本医学会評議員会（平成 7 年 2 月）において、その中間報告が承認された。現在、本報告作成のためできるだけ広い視野からの審議を続け、評議員会で承認された新規加盟学会審査のための常置委員会の設置を含め、審査手続き、審査基準等につき検討している。

医学用語管理事業

本会の医学用語管理委員会は、文部省「医学用語標準化の調査研究」によって、文部省学術用語集医学編の原案作成に努力中である。今夏は、用語選択・記載方法などに関する問題点について、日本医学会分科会の用語委員にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果に基づき、今後、医学用語標準化の問題点が整理され、より明確になると期待される。文部省に対しては、本年度末に報告される予定。